

令和6年10月2日 開所記念講演会アンケート回答一覧

あなたの職種を教えてください	今後、地域における在宅医療・介護連携について最も重要と考える点について教えてください（一言でも構いません）	自由記載（記念講演会の感想、今後のセンター活動へ期待する点など）
1 2 3 4 5 6 7 医師	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅診療に関する情報提供 ・ACPの普及活用 ・在宅医をする医師の増加 ・困った方々への強力な介入、組織をつくる。 ・多くの医療施設をまきこむこと ・多職種連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムは必要だったかな？ ・アンケートが面白かったです。 ・定期的に 年に一回は、講演会をやってほしい。
8 医師会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種間の顔の見える関係作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・この度は開所、誠におめでとうございました。 この度の講演会はとても勉強になりました。 同じ年度の開所ということで、とても心強く思っております。今後ともよろしく願いたします。
9 10 11 12 13 14 薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係性を継続的に行う ・情報共有特に介護者のキャラクター プラットフォームの作成 ・入院→在宅での情報共有と薬局機能により医療機能体制も変わります。 例 無菌製剤など在宅へ帰りたい患者さんを増やせるような情報共有が必要。 ・情報共有が重要 ・医療DXで共有する情報をクラウドに上げてみれるようにすることは、在宅だけでなく通常業務でもとても良いことだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の基本的な考えをお聞きし、今後は協議を重ねることに意義があると、考えます。 ・医師の負担を減らすため多職種の協力活用の必要性は良いアイデアと思った。 ・新しいルールを作り負担を減らすことは大切と思う。 ・連携の方法がわからない ・具体的な活用のイメージがつかない。
15 16 17 18 19 20 21 22 保健師	<ul style="list-style-type: none"> ・規範的統合が継続的、効果的に行われる基盤づくりを行政と同じベクトルで進めていかれることから ・それぞれの専門職が誰かにネットワークの構築を依存せず、それぞれがネットワークの位置づけのもとに自律することです。 ・皆で同じ方向に向かうこと、共有する事 ・在宅で、、、という考え方の定着とそれを支えられる人材 ・町民の市民の、ひとりひとりを自立した人として支えることが必要だと思いました。 いろいろなサービスを受けるにはお金が必要です。 貧困による医療介護サービスが受けられないことがないよう、生活の支えが大切であるとも思いました。 ・顔の見える多職種の関係作り ・まず、多職種間で円滑な連携ができる事 ・各組織間の連携を強め、町を超えた枠組みで取り組んでいければ、松戸市に近づくことができるかと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川越先生を呼んでくださってありがとうございました。松戸市は遥か上位にありますが、考え方や工夫など参考になります。 モチベーションも上がりました。このように、時々、自分たちをメンテナンスすることも必要だと思いました。 ・松戸市で包括ケアが成り立った大きな要因の一つは、主導者の中心が医師だったから、というのも大きいのではないのでしょうか。我々コメディカルスタッフが地域でネットワークを構築するにあたっての一番の障壁は、医師に対する働きかけ、理解の共有だと感じているからです。どうやって先生や医師会にご理解いただけるかという議論は必ず出てきます。そこに費やす時間や精神的負担は時にネットワーク構築を頓挫する要因でもあるからです。そういったことをスマートにクリアするためには、我々のようなコメディカルスタッフよりも、それを先導する医師の育成すること、そして、医師や医師会などが発信で構築していくことが必要だと感じていました。そう言った意味で、今回のセンターにおいて医師がチームにいることは、これまでネットワーク構築を難しくしていた点を解消してくれるものと期待を感じます。 ・シンポジウムでは、地域の医療介護に携わるそれぞれの立場の方から勉強になるお話が聞けました。 ・顔の見える関係が重要

	あなたの職種を教えてください	今後、地域における在宅医療・介護連携について最も重要と考える点について教えてください（一言でも構いません）	自由記載（記念講演会の感想、今後のセンター活動へ期待する点など）
23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を言いやすい関係の構築 ・お互いの活動内容を知る事 ・あるべき姿の共有 ・それぞれの事業所、職種でも同じ方向を向いて在宅医療・介護連携をしていくことが重要だと考える。 ・地域は1つの病院として考える ・職域理解 ・顔の見える連携 ・課題の共有と連携、専門性 ・地域の連携 ・話の中にもありますが、職種が違って話しやすい意見交換が出来るようお互い意識することが必要 ・報告、連絡、相談 ・情報共有 ・お互い情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の在宅医療・介護を担う一員としての役割を考えることができた ・平日2時間の企画は参加する側も大変です。 ・とても興味深い講演内容でした。在宅医療・介護連携推進事業のア〜クまでのそれぞれ内容を講義としてもお聞きしてみたいと思いました。ありがとうございました。 ・遠方でも貴重な講演を拝聴出来ました。担当者の方に感謝申し上げます。 ・多職種の抱える問題についても知ることが改めて連携が大切であると ・これからも頑張ってください
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67	介護支援専門員	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的な要望としては、ICT化がもっと前進して欲しいです。何か具体的なツールが導入されてより容易に情報共有してみたいです！ ・相談、連携、共通の理解力 ・必要な情報の開示、共有のシステム ・みんなが意見を出しやすい環境、相談しやす数居の低さ ・医師のアウトリーチ等システム化されると支援につながる。共通ツール情報共有ができるとう良い。 ・医療介護に関わる私達の意識を少しずつ変われること、これからの地域包括ケアに本日の記念講演を拝聴して一助になるよう考えます。 ・ルールを変えることを恐れない ・人数が確保されること ・多職種連携、言葉では簡単に言えますがお互い歩みよりが大切だと思います。 ・多職種連携が必要であること ・貴重な講演ありがとうございました。人口減少が急加速しているのを肌感じており、今後の課題に取り組んでいきたいと思いました。 ・多職種連携はもちろん、何か形として成果物が見える形で示していけると、連携できている実感を持って地域が盛り上がる。誰が強いリーダーシップを発揮していくのか明確にしていきたい。 ・在宅医療をしてくれる医師が増えてほしい。過疎化が進み通院すること事態困難な場合がある。高齢者に限らずオンライン診療 ファストドクター等 福島市で行っている取り組みを早く実施できる事に期待している。 ・連携に限ると思います。 ・患者の思いを尊重した支援をお願いします。在宅看取りは、穏やかに過ごせるように ・人材の確保 ・つながった点と点を大切に、いかに面として機能を発展させていくが重要というお話が印象的でした。 ・点と点を組織化する事は大変な事だとは思いますが、地域で一つのチーム作りを目指して頑張っていければと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターへ期待すること→川俣町内での取組に対して、俯瞰的にみて頂きながら、伊達圏域で川俣以外の地域での取組みでマネできる部分を、助言してもらいたい。上手にアシストしてもらいたい。 ・県内の研修でよく『東北地区は介護、医療の連携とか凄いいね』と言われておりました。それだけでも誇らしく思っていたのですが、今回このような素晴らしいセンターの設立でさらに充実した医療、介護などの連携が図れるようになると思うと、自分もさらに頑張っていかなければ…と身が引き締まります。 ・在宅医療・介護連携支援センターの役割 姿をイメージすることができました。 ・何でも良いから動いてみると良いのかもしれないね。病院や包括や居宅を訪れて現状を把握していくと、、動かないと見えませんよね ・こんなことで、、なんて思わないで何でも相談したいと思います。よろしくお願いします。 ・川越先生の話が大変わかりやすくてとても良かったです。 ・若年層のがん患者や緩和ケアの支援、医療と介護共通のICTツールの活用 ・センターは、新しい風を伊達地域に吹かせて頂くような勢いのある積極的な動きを期待します。踏み込みなかったローカルルールの改善など本来あるべき姿に向かった取り組みを期待します。ICTは地域柄、反対意見が多いかと思いますがぜひ進めて頂き、福島島のモデル都市となってほしい。 ・松戸市センターの取り組みは、参考になりました。課題を一つ一つ改善できるよう取り組んでほしい。行政と医師会の協力体制、多職種を巻き込んでほしい。 ・センター立ち上げ準備から今日まで大変お疲れ様でした。素晴らしい記念公演だったと思います。今後ともよろしく願いいたします。

	あなたの職種を教えてください	今後、地域における在宅医療・介護連携について最も重要と考える点について教えてください (一言でも構いません)	自由記載（記念講演会の感想、今後のセンター活動へ期待する点など）
68	介護職 ヘルパー	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも連携を密にしていければ良いと思います ・常にコミュニケーションを取りながら支援していくことが大切だと感じました。 ・小さい事でも、共有していく。 ・頑張りましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ・お忙しい中ありがとうございました。
69			
70			
71			
72			
73			
74	施設長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が老人保健施設になると良いと思った 	<ul style="list-style-type: none"> ・特養として、今後センター様とどのように関わっていけるのか検討してまいります。
75			
76	事務	<ul style="list-style-type: none"> ・皆んなが同じ方向をむく事が一番大事だと感じました。 	
77	社会福祉協議会職員	<ul style="list-style-type: none"> ・川越先生の取組み・講演でもあったとおり、医師の理解・協力と情報共有が大切だと思います。 ・連携がスムーズに行われること、第一次 第二次 第三次と連携されて結果に結びつくこと。中断しないこと 最適な環境に届くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携ツール「私のカルテ」の普及・推進。市・町単位での医療・介護・福祉のワークショップ開催。伊達ネットワーク委員会の積極的活用と対面での開催支援。 ・講演ハイレベルの内容であり、一歩でも近づけることに期待 ・連携の大切さ、広域連携の必要性、川越先生の適切なアドバイスに感銘を受けた
78			
79			
80			
81	社会福祉士	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の実情」という点から他事例は参考にしても真似をしないことです。地域にあった事業を自信をもって実行していくことだと思います。 ・連携は手段であって、目的ではないと思います。抽象的な「地域の人々」ではなく、実際に困難を抱えるAさん、Bさんの生活の質をどのように上げ、健康で文化的な生活を送れるようにするのかその点が一番重要と思います。 伊達地方で何が足りなかったのかといえば、実際に起こっている難ケースを取り上げ、多職種が実際に解決を図るための方法を、真剣に議論できてない点ではないかと感じた。 松戸はそのような会議ができてるように感じた。 ・顔の見える関係づくり ・入院患者が地域に戻る際、地域との連携が重要であることが分かっているながらも、病院主導で方針が決まり完結してしまうことがほとんどです。地域からの病院に対する要望を吸い上げ院内に発信すること。病院の現状を地域に理解してもらい、一緒に今後の連携方法を検討していくことが必要だと感じています。 ・医療、介護がお互いを尊重する知ることが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・医介連携で忘れてはならないのは「患者ファースト」です。バイタルリンクは患者を中心としたICTツールであり、まさに患者ファーストを実現するためのツールです。このやりとり自体を通し医療介護職は自然と学習の機会になります。当地域も松戸市の事例を参考にバイタルリンクを導入しましたが、改めて、有効性を感じました。 ・簡単に気軽に連携を図れるように、ICTの標準化をお願いしたい。 ・医師によるアウトリーチ事業、医師と介護専門職とが定期的に会議を行い、顔の見える関係づくり ・貴重な機会を設けて頂きありがとうございました。 ・川越先生の講演含め貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。医療と介護の橋渡しを是非よろしくお願いします。 ・現場で働くスタッフがイキイキと伊達地方で働ける環境作りを手伝って下さい。
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90	精神保健福祉士	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係性 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演をきいて、頭の中が整理できました。身寄りのない方の医療介護の利用について、介護医療行政を含めルール化、共通認識ができるよう期待しています。
91	理学療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源をしっかりと把握していくことが必要 それぞれの事業所もしっかりアピールすることが必要 ・継続的な人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊達市も早くICTを利用した情報共有が出来るようにしていただけるよう期待します。
92			
93			

	あなたの職種を教えてください	今後、地域における在宅医療・介護連携について最も重要と考える点について教えてください (一言でも構いません)	自由記載（記念講演会の感想、今後のセンター活動へ期待する点など）
94	地域連携室	・他職種との連携	
95	特養施設長	・情報共有 多職種連携	
96	病院事務	・アウトリーチ	・実際に連携時に言葉を交わす人達の教育と連携の仕方の構築 エチケットとかとても有効と思います
97	福祉施設施設長	・各職種の連携 広く進めていけると良いと思います。	・川越先生の講演大変良かったです。一歩ずつ伊達地区でも活動が進むことを、期待します。
98	福祉用具専門相談員		
99	民間	・ICT利用がと感しました。 それ以上に顔の見える関係性を作るためにリーダーシップを取れる人が必要に思いました。	・オンライン診療を用いた医療へのアクセシビリティの向上
100	行政職員	<ul style="list-style-type: none"> ・人選が大事だと思います。 ・行動力 ・小さい町だと絵に描いた餅だが、言っていることそのものはそのとおりだなと思うことが多かった ・職種間の垣根を低くするための関係作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・川越先生から多数の実践例を紹介され、問題点を見つけて改善策を実行する勢いの凄さを感じました。他方で、百発百中とはいかないでしょうから、改善策を試みてから上手くいきそうなのか失敗しそうなのかの見極めをどう意識されているのかも知りたいと思いました。 ・多種多様な業務となりそうですが、頑張ってください。 ・観月台の椅子が座り心地が悪く座面も小さいために腰が痛くなった。コンベンションホールは他にもあると思うので、次回以降は別なところで実施してほしい
101			
102			
103			
104			
105			